

むかわ町・日高町・平取町の3町による広域の観光圏の形成を目指して

# わ く わ く 鶴川・沙流川WAKUWAKU協議会

鶴川・沙流川WAKUWAKU協議会は、昨年5月、むかわ町、日高町、平取町の3町による広域の観光圏の形成を目指すために設立されました。協議会の構成員には、各町の農協、商工会、観光協会、森林組合など17団体が参加しています。

平成27年度は、国から地方創生交付金の交付を受けながら、札幌駅北口発シャトルバスの試行を行い31回(コース)運行されています。

今回のシャトルバス運行の事業評価では、国道235号、237号線の利用者の減少やJR日高線の不通などにより、地域経済の地盤沈下が危惧されている中で、3町には、アイヌ文化や恐竜化石などの地域固有の歴史文化や充実した博物館施設、温泉、食文化等のさまざまな魅力ある地域資源を掘り起こし、東京オリンピック・パラリンピックが開催される平成32年には白老町に「民族共生象徴空間」が整備され、北海道を訪れる外国人観光客の増加も予想されることから、「民族共生象徴空間」の白老町、新千歳空港、さらに3町との間をつなぐ観光ルートの基盤をつくり、観光関係者の参入と経営安定化、雇用の創出にもつながることが期待されています。

## 平成28年度 第1回協議会を開催

5月30日に第1回協議会が開催され、平成28年度の事業について協議が行われました。

今年度は、平成27年度に続き、事業名は「鶴川・沙流川流域広域交流圏域形成DMO構築連携事業」とし、地方創生加速化交付金の交付を受け、協議会で実施する事業が7事業、各町で実施する事業が5事業、併せて12事業、総額1億3,046万5千円の事業を実施し、地域連携DMOの構築を目指します。



協議会実施事業	⇒流域資源調査、PRビデオ等制作業務、流域観光モニターツアー、マーケティング調査業務、アンテナショップ運営業務など
むかわ町実施事業	⇒恐竜モニュメント設置事業
日高町実施事業	⇒日高地域活性化事業、オフロードバイク大会
平取町実施事業	⇒彫刻機設置事業、彫刻機械操作技術講習業務

※DMOとは

顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにするマーケティングに基づく観光戦略の策定や推進、地域内の幅広い関係者との合意形成などで、観光事業のマネジメントを担う機能・組織です。海外の観光先進地域ではすでにDMOが地域の集客に重要な役割を果たしています。

## シンポジウムを開催

第1回の協議会終了後、協議会会員や構成団体を対象に「鶴川・沙流川の地域連携DMOの構築」に向けてというテーマで、(株)カルチャーアットフォーシーズンズ代表取締役中島淳氏を講師に招いてシンポジウムを開催しました。

講演の内容については以下のとおりとなっています。

### －観光は地域づくりの視点で考える－

観光は観光業だけの視点で考えるのではなく、「観光地域づくり」の視点で考える段階にきており、情報が有り余っている中で、個人旅行をするときに鶴川・沙流川の両流域を選んだときに、観光の拠点である施設しか回らないとしたら、旅行の後に町の名前が出てくるかわからない。

この地域は、定山溪や富良野など一般的な観光地ではなく、今まで観光地としてやってこなかったもので、無限の可能性があるということ。大切なのは、自分達の地域がどんな地域なのか、なんで住んでいるのか、自らの地域を愛し、誇りをもって暮らしていると、自ずと誰もが訪れたい地域になるということです。

観光地域づくりは、本来の地域が持つ、地域にとって当たり前前とされていることを掘り起こし、その時代のニーズにあった地域の魅力を最大限発揮できる資源として活用し、その地域での時間の過ごし方を提案できるようになること。地域住民が地域の「これ、いいでしょう！」と自信をもって言えるようになること。人と人、来訪者と地域の人々との結びつきが深まることを大切にして、地域全体を楽しんでもらうということです。



### －DMOという考え方が出てきた背景－



2000年初頭までは、「行政」「観光協会」「観光事業者」の3者による観光振興が圧倒的となっていました。地域間競争が激しくなり成果が上がらなくなりましたが、観光大国の欧米を見ると日本も「DMO」という「機能」が必要なのではないかという考え方になっていきました。

DMOとは、地域の稼ぐ力を引き出し、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った地域づくりのかじ取りの役割を果たす機能です。

### －「DMO」構築のポイントは－

地域で住んでいる人が気づかない地域の魅力を掘り起こし、テーマを持ちながら魅力化を図り、例えば新千歳空港では買って食べられないここだけのものを作り、できるだけ補助金なしで、ちゃんとお金が回る仕組みをつくることです。そこには人がまわしていかなければならないので、実行してくれる人材を着実に確実に見つけること、育てることが大事なことであり、難しいことです。

WAKUWAKU協議会の存在に安心していると、これまで通り3町はバラバラな取組みに終始する可能性があるため、3町共有の実態あるプラットフォーム（基礎・基盤）を目指しましょう。

### －鶴川・沙流川WAKUWAKU協議会に関するお問い合わせ－

日高町役場 経済観光課 電話 01456-2-6031